

12月7日に豊田小学校で「赤磐市研究指定校園補助事業」に係る授業公開が行われました。

豊田小学校の校内研究のテーマ

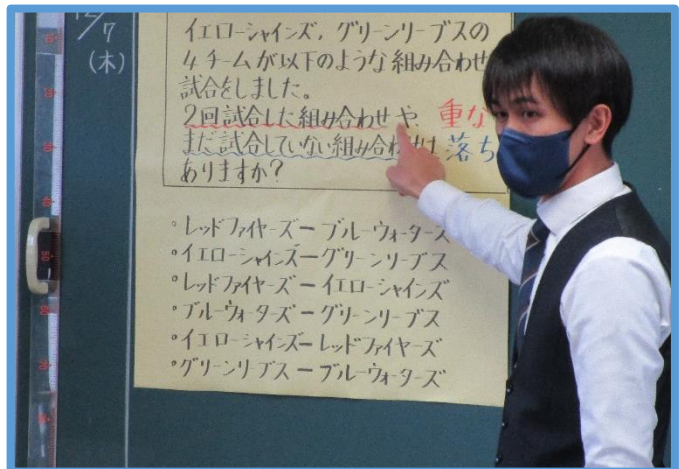
対話的な学びを通して、どの子も「分かる」「できる」を実感できる算数の授業づくり



1年生 「ものとひとつのかず」
安井由実 教諭

1年生では、並んでいる人の数から順番を考えたり、順番から全体の人数を考えたりする学習でした。

児童は○をワークシートにかきながら考え、ワークシートをタブレットで写真にとって共有し、考え方や立式について話し合いました。ICTが媒体となった話し合いが1年生でも可能であるということを提案してくださった授業でした。いきいきと伝えようとする姿がたくさん見られました。



6年生 「場合を順序よく整理して」
池嶋知明 教諭

6年生は、「落ち」や「重なり」がでないように組み合わせ方を考える学習でした。チーム名を記号化して、線を引ながら組み合わせを考えたり、組み合わせを表に表せたりしました。

児童が自力で考えることができる足場を固めるための活動を導入に仕組んだり、友達との話し合い活動を取り入れたりして、児童が問題解決の見通しをもって主体的に授業に取り組めていました。



【指導助言者】 ノートルダム清心女子大学 杉能道明 准教授
「わかる」と「できる」は違う。「説明ができて、わかったことになる」ということです。したがって、今回の2つの授業で共通する大切なポイントは、**根拠をもって説明する**という点です。1年生では挿絵(図)と問題文と式を結び付けながら、6年生では、図や表に表したことを自分で言語化しながら説明することによって、確かな意味理解につながります。
そのような学びを可能とするための教材研究や教具の準備、環境設定の在り方が問われると思われました。

豊田小学校が「できる」と「わかる」は違う、という視点に問題意識をもって研究をはじめ、対話的な授業づくりに取り組んだことが、豊田小学校の先生方の授業や杉能先生の指導助言を通して、市全体へ波及していくことをとてもうれしく感じました。赤磐市に算数好きな子どもたちが増えるとうれしいです。